

第2章 産業廃棄物の処理状況

1 全国の産業廃棄物の処理状況

1.1 排出量及び処理状況

全国の産業廃棄物排出量の経年変化及び処理状況は図3のとおりです。

排出量は平成20年度から平成25年度にかけて減少しましたが、平成26年度で微増し、以降は減少傾向にあります。再生利用量は200万t前後で、平成20年度以降横ばいとなっていますが、最終処分量は平成10年度以降一貫して減少しております。

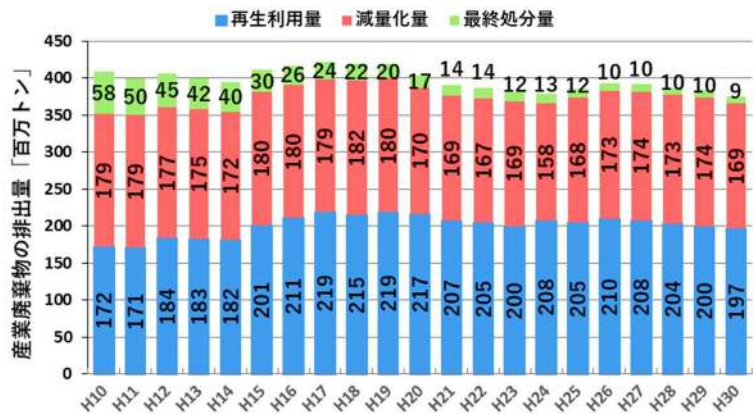


図3 全国の産業廃棄物排出量と処理状況

出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況（平成30年度）速報版」より

1.2 種類別排出量

全国の産業廃棄物の種類別排出量は図4のとおりです。

汚泥が最も多く排出量全体の44%、動物のふん尿が21%、がれき類が16%となっています。

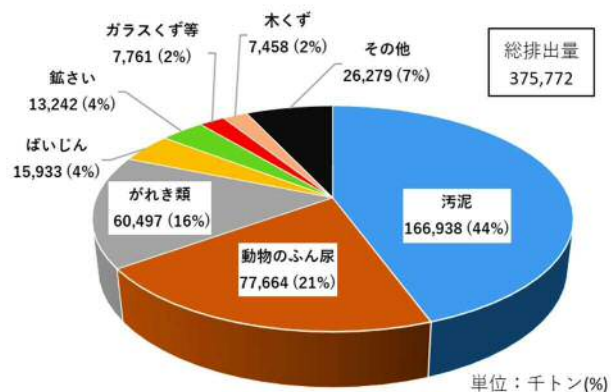


図4 全国の種類別産業廃棄物排出量（平成30年度）

出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況（平成30年度）概要版」より作成

1.3 国の基本方針の計画目標について

国の基本方針に掲げる国の目標は、平成24年度の各数値に対し、排出量は増加を3%増までに抑制し、再生利用率は1%増、最終処分量は1%減としています。

2. 北海道の産業廃棄物の処理状況

2.1 排出量及び処理状況

北海道の産業廃棄物排出量の経年変化及び処理状況は図5のとおりです。

排出量は、平成10年度から平成14年度にかけて増加し、平成19年度では減少したものの、平成24年度では微増し、平成29年度は平成24年度と同程度でした。一方、最終処分量は平成10年度から減少し続けています。

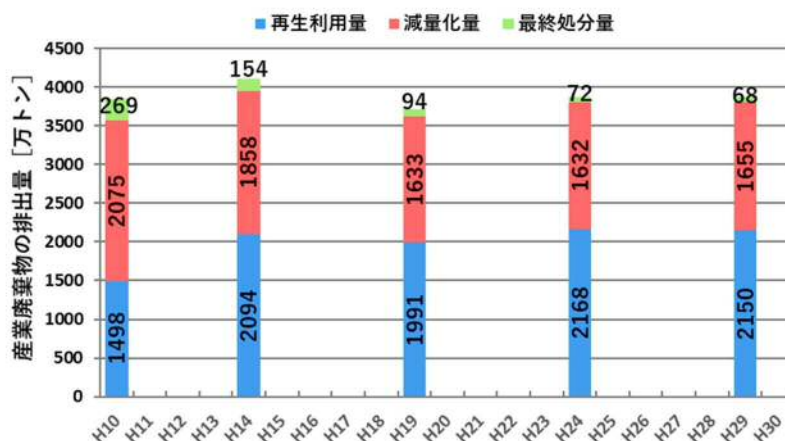


図5 北海道の産業廃棄物排出量と処理状況
出典：北海道産業廃棄物処理状況調査より作成

2.2 種類別排出量

北海道の産業廃棄物の種類別排出量は図6のとおりです。

動物のふん尿が最も多く、排出量全体の50%を占め、次いで汚泥が32%です。これら2種類で排出量全体の80%以上を占めています。

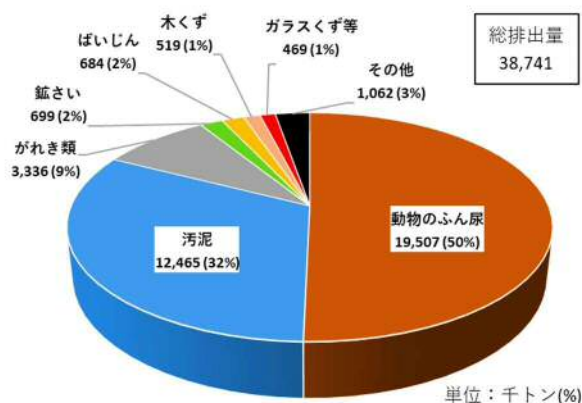


図6 北海道の種類別産業廃棄物排出量 (平成29年度)
出典：北海道産業廃棄物処理状況調査より作成

2.3 北海道廃棄物処理計画 [第5次] の計画目標について (抜粋)

北海道廃棄物処理計画 [第5次] (計画期間：令和2年度～令和6年度) において掲げる目標は、平成29年度の各数値に対し、排出量は同程度、再生利用率は1.5%増、最終処分量は約16%削減としています。

3. 札幌市の産業廃棄物の処理状況

3.1 排出量及び処理状況

札幌市の産業廃棄物排出量の経年変化及び処理状況は図7のとおりです。

排出量は、平成10年度から平成15年度にかけて、各種リサイクル法の施行に伴い大きく減少しており、平成15年度から平成30年度まで300万t弱で推移しています。最終処分量は平成15年度から平成20年度にかけて10万t減少して以降、大きな変化はありません。一方

で、平成15年度以降で、再生利用量は、平成30年度が最も大きくなっています。

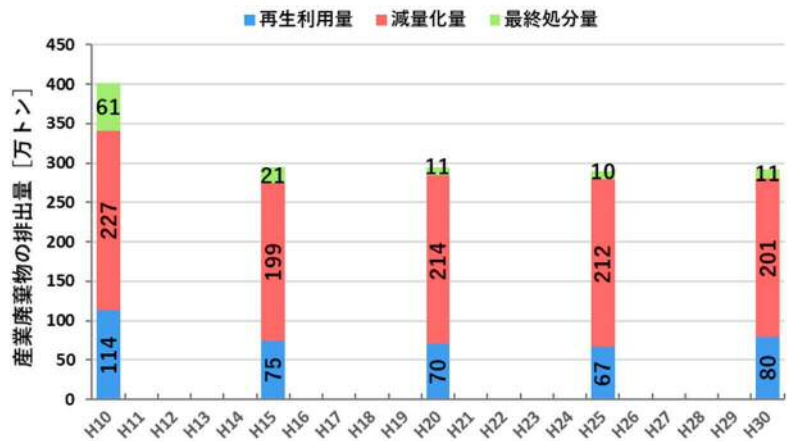


図7 札幌市の産業廃棄物排出量と処理状況

3.2 種類別排出量

札幌市の産業廃棄物の種類別排出量は図8のとおりです。

種類別排出量では、汚泥が最も多く全体の約70%を占めています。次いで、がれき類が約15%で、これら2種類で全体の約85%を占めています。全国や北海道で排出量の多い動物のふん尿はほとんどありません。

排出量の最も多い汚泥のうち、上下水道を浄水処理した後に生じる泥状のものが多くを占めており、汚泥全体のうち95%以上にあたります。

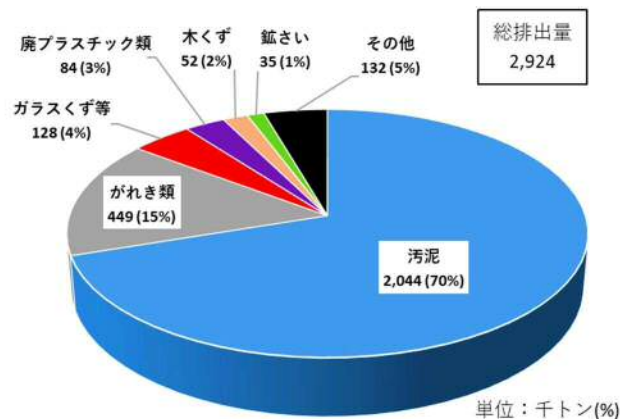
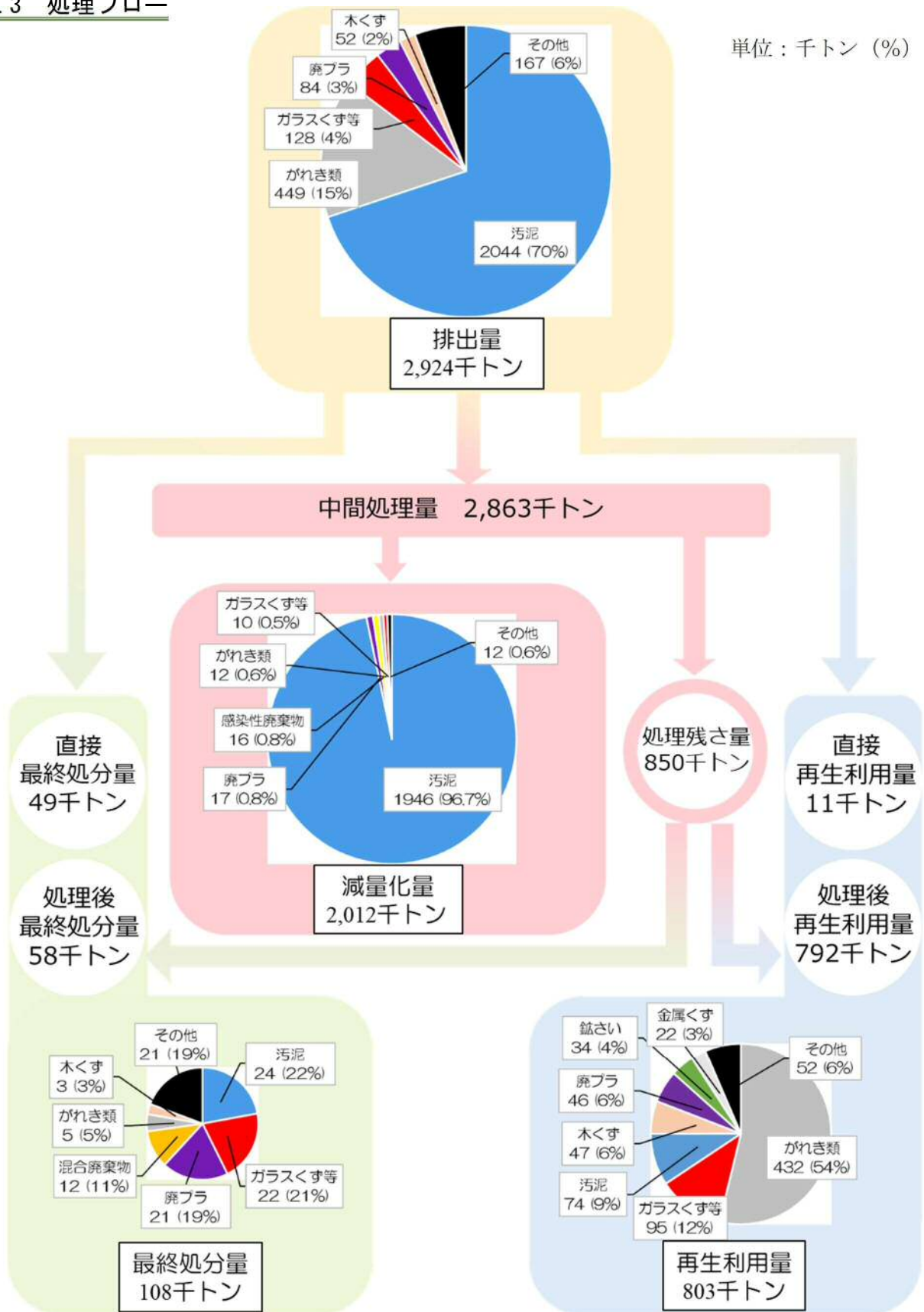


図8 札幌市の種類別産業廃棄物排出量 (平成30年度)

3.3 処理フロー



※ 四捨五入をしているため、合計が合わない場合がある。

図9 札幌市の産業廃棄物の処理フロー（平成30年度）

3.4 産業廃棄物の種類ごとの排出・処理状況

産業廃棄物の種類ごとの処理状況をみると、汚泥、廃プラスチック類、廃石膏ボード、混合廃棄物については、最終処分量が大きく、特に廃石膏ボードにおいては、最終処分率も80%を占めています。

がれき類、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、木くず等については、排出量は多いものの、再生利用率が高くなっています。

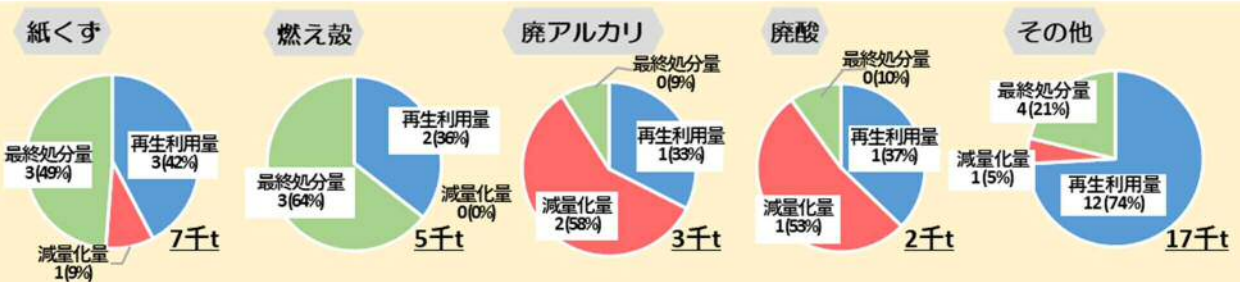
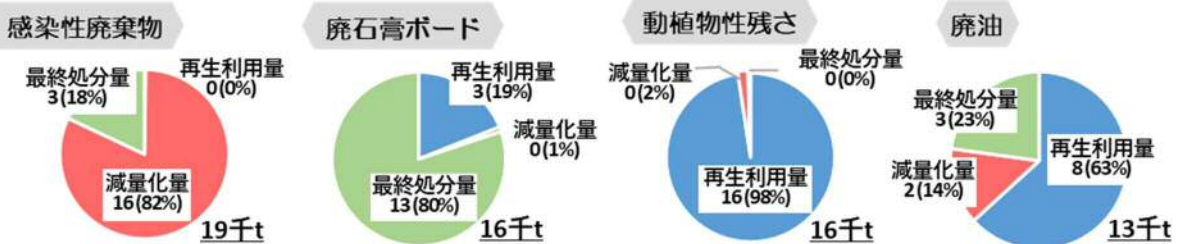
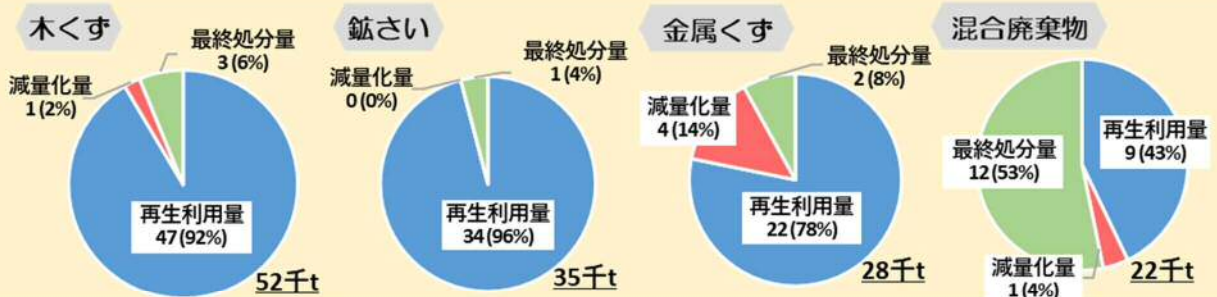
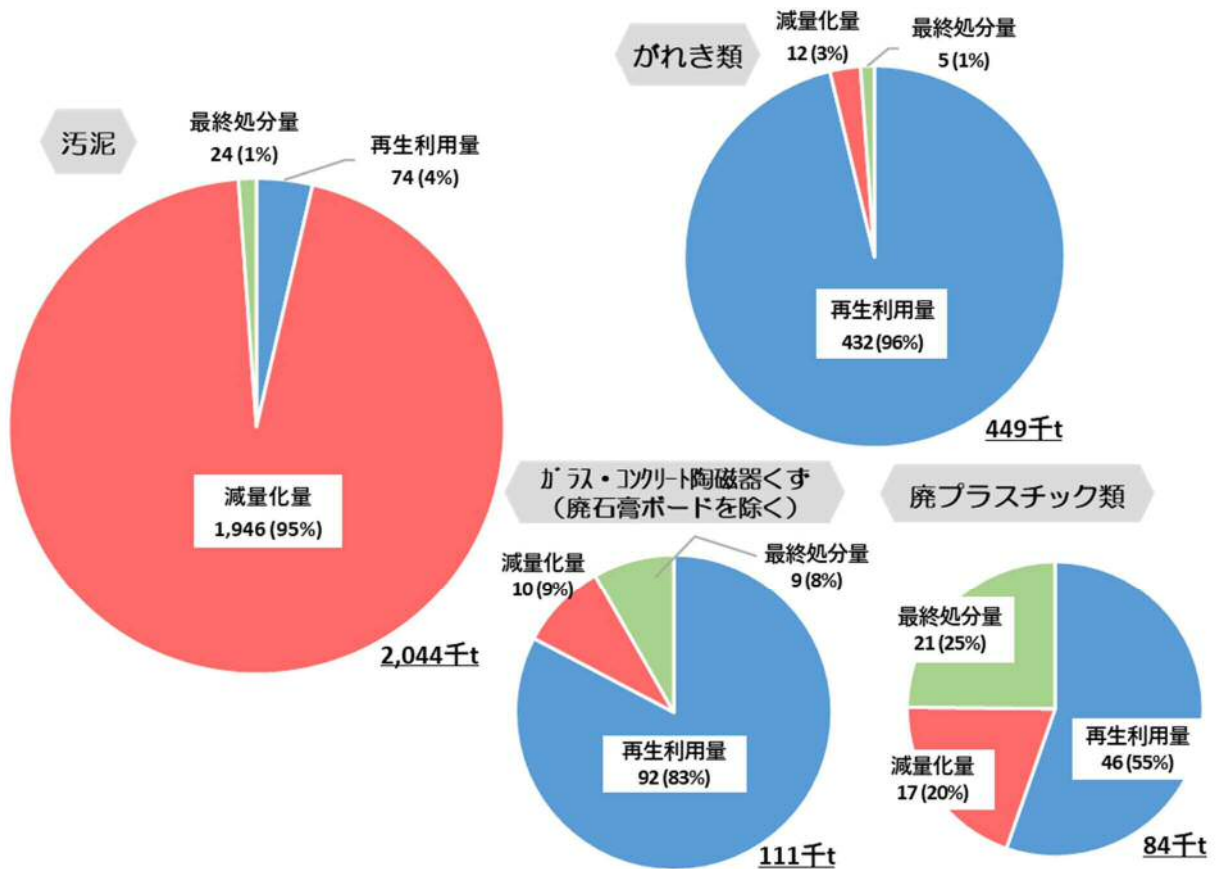
表2 札幌市の種類別産業廃棄物の排出・処理状況（平成30年度）

種類	区分	排出量 [千t]	再生利用量 [千t]	減量化量 [千t]	最終処分量 [千t]	再生利用率 [%]	減量化率 [%]	最終処分率 [%]
燃え殻		5	2	0	3	36%	0%	64%
汚泥		2,044	74	1,946	24	4%	95%	1%
廃油		13	8	2	3	63%	14%	23%
廃酸		2	1	1	0	37%	53%	10%
廃アルカリ		3	1	2	0	32%	58%	9%
廃プラスチック類		84	46	17	21	55%	20%	25%
紙くず		7	3	1	3	42%	9%	49%
木くず		52	47	1	3	91%	2%	6%
繊維くず		0	0	0	0	36%	0%	64%
動植物性残さ		16	16	0	0	98%	2%	0%
ゴムくず		0	0	0	0	36%	0%	64%
金属くず		28	22	4	2	78%	14%	8%
ガラス・コンクリート・陶磁器くず (廃石膏ボードを除く)		111	92	10	9	83%	9%	8%
廃石膏ボード		16	3	0	13	19%	1%	80%
鉱さい		35	34	0	1	96%	0%	4%
がれき類		449	432	12	5	96%	3%	1%
動物の糞尿		0	0	0	0	98%	2%	0%
ばいじん		0	0	0	0	0%	20%	80%
混合廃棄物		22	9	1	12	43%	4%	53%
感染性廃棄物		19	0	16	3	0%	82%	18%
その他		16	12	1	3	74%	5%	21%
合計		2,924	803	2,012	108	27%	69%	4%

※ 表中の「0」は小数点以下を四捨五入した結果、1千t未満となるものである。

※ 表中の「0%」は小数点以下を四捨五入した結果、1%未満となるものである。

※ 四捨五入をしているため、合計が合わない場合がある。



※ 排出量が1千t未満である繊維くず、ゴムくず、動物のふん尿、ばいじんはその他に含めた。

※ 四捨五入をしているため、合計が合わない場合がある。

図10 札幌市の業種別産業廃棄物排出・処理量（平成30年度）

3.5 業種ごとの排出・処理状況

業種別の廃棄物排出・処理状況をみると、電気・ガス・熱供給・水道業からの排出量が非常に多くなっています。また、そのほとんどが減量されています。

次いで、建設業、製造業と排出量が多くなっており、上位3業種で全排出量の95%を占めています。建設業及び製造業は、他業種と比較して再生利用率が高いものの、排出量が多いため、最終処分量も多くなっています。

表3 札幌市の業種別産業廃棄物の排出・処理状況（平成30年度）

品目	区分	排出量 [千t]	再生利用量 [千t]	減量化量 [千t]	最終処分量 [千t]	再生利用率 [%]	減量化率 [%]	最終処分率 [%]
農業，林業		0	0	0	0	97%	2%	1%
建設業		556	498	17	39	90%	3%	7%
製造業		252	198	36	18	79%	14%	7%
電気・ガス・熱供給・水道業		1,961	25	1,918	18	1%	98%	1%
情報通信業		2	1	0	0	81%	14%	5%
運輸業，郵便業		15	8	1	5	57%	7%	37%
卸売業，小売業		57	28	17	12	49%	29%	22%
金融業，保険業		0	0	0	0	62%	8%	30%
不動産業，物品賃貸業		11	8	1	2	74%	10%	16%
学術研究，専門・技術サービス業		2	0	1	0	24%	58%	18%
宿泊業，飲食サービス業		9	7	1	2	72%	11%	17%
生活関連サービス業，娯楽業		2	1	1	0	39%	46%	15%
教育，学習支援業		0	0	0	0	53%	8%	39%
医療，福祉		33	8	16	8	24%	50%	25%
その他のサービス業		22	18	2	2	80%	9%	10%
合計		2,924	803	2,012	108	27%	69%	4%

※ 表中の「0」は小数点以下を四捨五入した結果、1千t未満となるものである。

※ 四捨五入をしているため、合計が合わない場合がある。

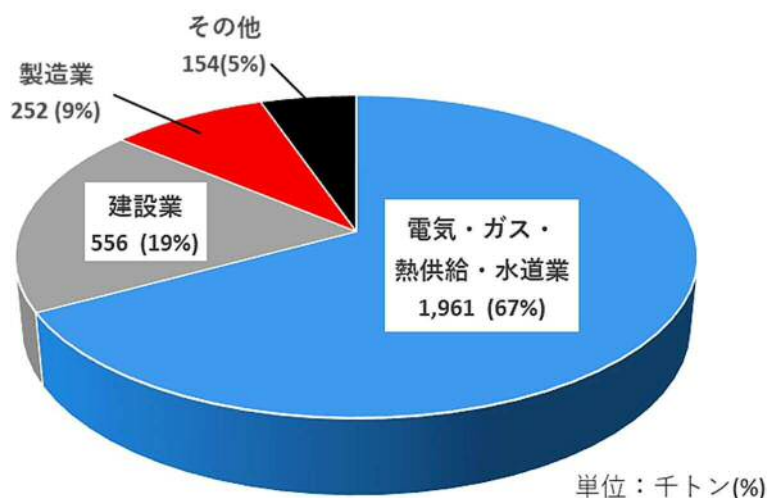


図11 札幌市の業種別産業廃棄物の排出量（平成30年度）

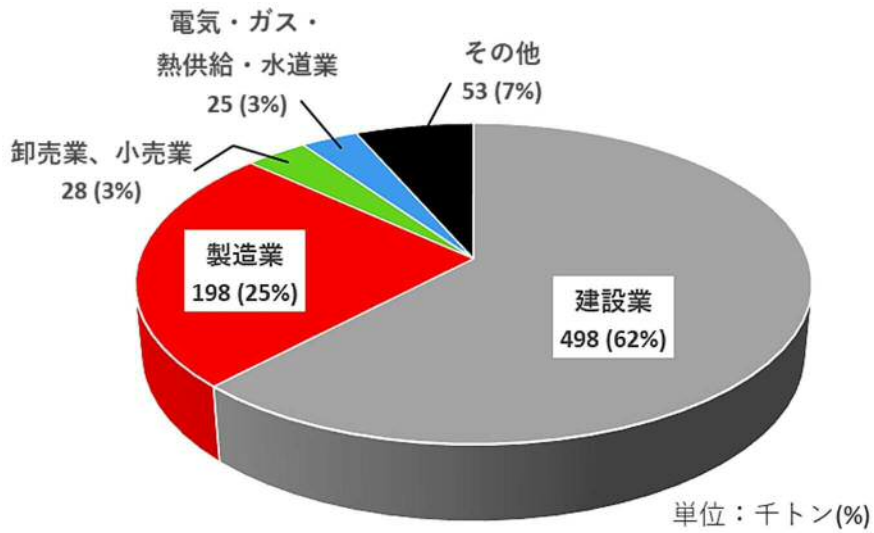


図 1 2 札幌市の業種別産業廃棄物の再生利用量（平成 30 年度）

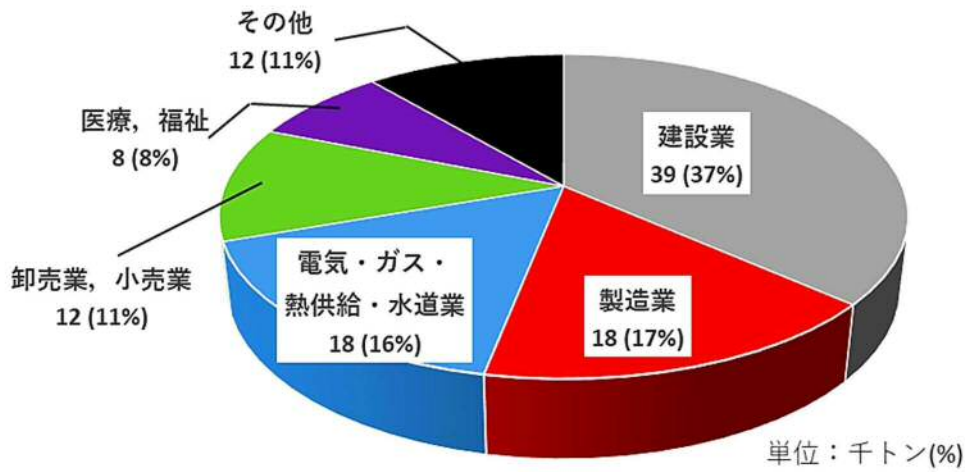


図 1 3 札幌市の業種別産業廃棄物の最終処分量（平成 30 年度）

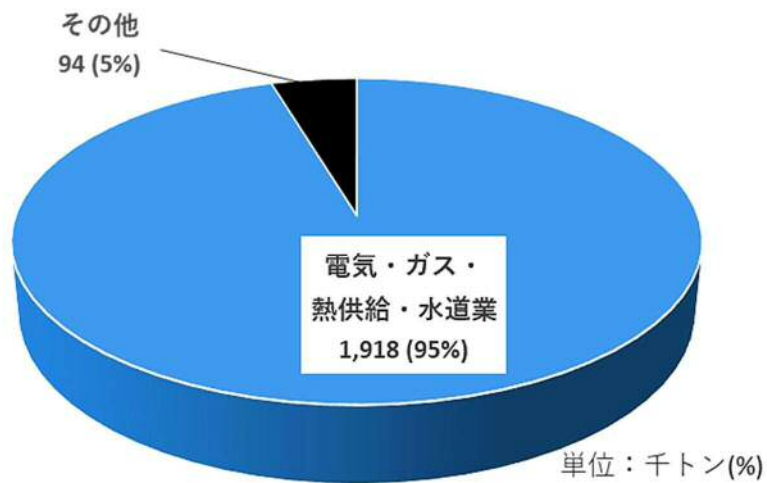
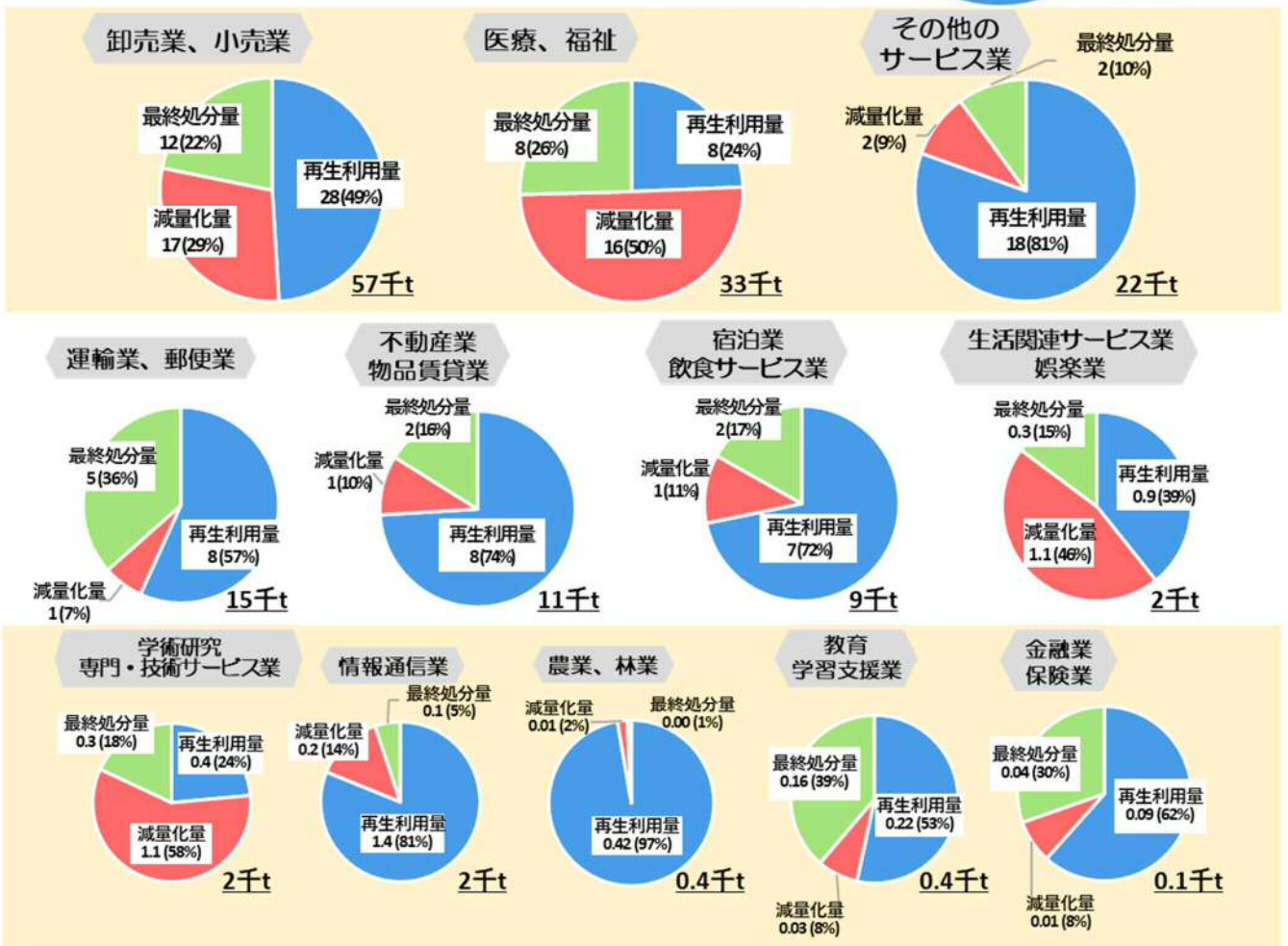
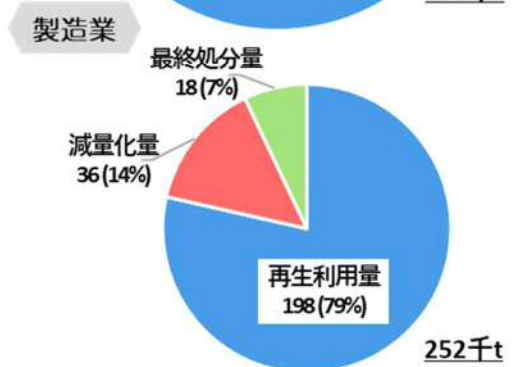
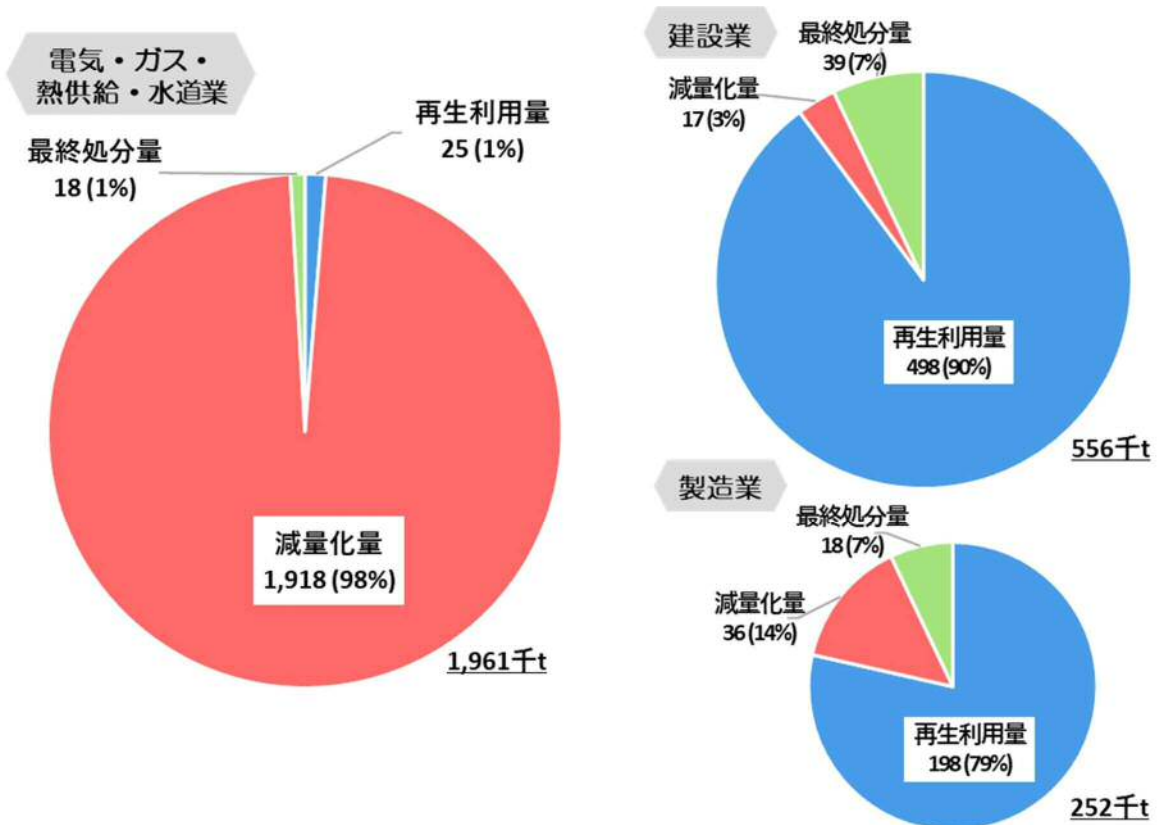


図 1 4 札幌市の業種別産業廃棄物の減量化量（平成 30 年度）



※ 四捨五入をしているため、合計が合わない場合がある。

図 15 札幌市の種類別産業廃棄物排出・処理量（平成 30 年度）